

『超現代』

■登場人物

- 大塚啓介 32歳 飯田町出身のUターン組。介護職員。
黒木 みつこ 58歳 飯田町に元々住んでいた住民。
今 織子 44歳 移住者。介護ボランティアをしている。
青山 佳子 60歳 移住者。農業をしている。
奥村 裕実子 52歳 移住者。日本語教師。
外岡 雅水 43歳 移住者。休職中。
早川 由衣 45歳 移住者。イラストレーター。
伊藤 杏 24歳 移住者。フリーター。康輝の妻。
伊藤 康輝 28歳 移住者。フリーター。杏の夫。

■あらすじ

過疎化の進んでいる架空の町、三重県梅坂市飯田町。

山あいにつながる川に沿って田畑が広がり、小さな集落が点在する。

減少し続ける人口に歯止めをかけようと、梅坂市はベーシックインカムの実証実験を開始した。

ベーシックインカムとは、政府が国民に生活に必要な最低限の現金を支給するという施策。フィンランドなど海外では実証実験の例がある。

本作は近未来の日本で実証実験が行われた、という設定をとっている。

移住者と飯田町に元から住んでいた住民たちが混ざりながら、小さなコミュニティを作っている。彼らは集会所に集まり、2週間後に控えた、お祭りの準備をしている。

集会所にいる人たちの背景は様々である。うつ病になり休職中に移住してきた人、家族との関係に悩む人、妊娠している人など。各々の都合や悩みを抱えつつも、祭りの前の高揚感の中で、準備に精を出している。

そんな中、ベーシックインカムが突然中止になることが告げられる。

数日後、大雨の中、集会所に集まっている人々。

ベーシックインカムの突然の中止で生活への不安が増しており、祭りの準備どころではなくなっている。

しかし、祭りは来週末に迫っており、準備は進めなければならない。準備は遅々として進まない。連絡なく集まりに遅れるものや、祭りの準備にストレスを感じ泣き出すものも出てくる。小さいさかいから口論が発展していく。

最悪の空気の中、大雨警報のアラートが鳴り、皆急遽帰宅することになる。

集会所を片付け、あわただしく帰る中で、普段であれば誰かが車に乗せて集会所から自宅まで送っている初老の女性「黒木みつこ」を集会所に置いて帰ってしまった。

彼女は精神に病を抱えており、いつもは皆で適度に気遣いつつ一緒に祭りの準備をしていたのだが、その日は皆不安と焦りの中で「誰かが送っていったのだろう」と彼女を置き去りにして帰宅してしまう。

翌日、置き去りにしてしまった女性「黒木みつこ」が土砂崩れにあい亡くなったことが皆に知らされる。彼女は昨晩の大雨の中誰も送ってくれないものだから、外に出て、土砂崩れにあい亡くなった。

みつこの死を弔い、自分たちのしたことを悔いている人々。

やがてみつこの遺品が集会所に広げられる。遺品に触れ、彼女を弔う中で、崩壊していたコミュニティが新たな姿に再編されていく。弔いと祭りが重なりあっていく風景の中、物語は終幕となる。

『超現代』

三重県梅坂市「飯田町」

奈良との県境に位置し、山々に囲まれた谷あいに沿って流れる、「山野辺川」を背骨にし、田畑と古い家屋で形成される15の集落が点在している。

この飯田町は、人口およそ1200人、500世帯。高齢化率60パーセントを超える、限界集落だった。

飯田町のある梅坂市は、減少し続ける人口に歯止めをかけようと、※ベーシックインカムの実証実験を開始した。

※ベーシックインカム … 政府から全国民に対して、生活に必要な現金を支給する制度。これまでフィンランドなどで実証実験が行われている。

【第一幕】

飯田町のほぼ中心にある「元飯田小学校」。

かつて職員室だったこの部屋は、住民と移住者との交流促進を目的とした集会所として再利用されている。

昭和に建てられた校舎は古い。

白いコンクリートの柱、タイル状に敷き詰められた木の床、黒板、長机、エアコン。そのどれもが色あせ、また剥がれ落ちているが、再利用の際に持ち込まれた、新しい冷蔵庫や給湯器具やノートパソコンも同じく色あせて見えるのは、部屋を染める夕日のせいである。

耐震補強の筋交いの、黒く太い影が部屋を斜めに切り取っている。

誰もいない集会場。

運動場の砂を巻き上げるタイヤの音が聞こえる。

集会場の側のグラウンドに、一台の軽自動車がやってくる。

やがて、グラウンドに面した勝手口到人影が現れ、ドアのノブを回す。

声 …… いや、なんも聞いてないんやったらええ……そんな心配する必要ないやろうな……今まだそんな話しとる段階と違うやろ……

と、声がして、人影は鍵を開け、入ってくる。

30代中頃のジャージのパンツをはいた男性、大塚啓介である。

大塚 (煩わしように) ……だから、年金は年金で貰えるやろうから……そんなことはないやろ……元に戻るだけや……いや、それはまだ聞かんとして。俺も聞いとらんことになっとるんさ……

大塚は、電話しながら、勝手口横の下駄箱の上にあるアルコールのボトルで両手を消毒し、スリッパに履き替える。

大塚 まあまた帰ってからしゃべるわ……9時には終わる思うけど……飯は食うて……わかつとる……うん、ほな

大塚、電話を切る。

耳につけた無線のイヤフォンをはずし、肩や腰をほぐしながら、締め切られていた部屋の窓を開ける。

そして、ノートパソコンを開き、立ったまま操作を始める。

《舞台上に映像が投影される》

映像の内容は飯田町で暮らす、移住者たちの生活を映したもの。前半にベーシックインカムの施作と飯田町での生活を紹介し、後半では飯田町で行われる予定の山の神祭りの準備をする姿が映される。

この映像は、移住者たち自身が、祭りのPRの一環で制作したもの。

大塚がノートパソコンで見ている映像が舞台に投影されている。

映像が終わり、外からグラウンドの砂を巻き上げるタイヤの音がする。

大塚 (グラウンドの方を見て) ……織子さんか

やがて、今織子が部屋へ入ってくる。

織子 啓介だけ？

大塚 (パソコンを閉じながら) はい、ていうか織子さん聞きました？

織子 なに？

大塚 いや、さっき……あつ

大塚が織子の顔を見て驚く。

織子は、唇の横に大きなガーゼを張っている。

織子 さつき？ なに？

大塚 (驚いて) それ、(ガーゼをさし) やられたやつ？ 田村さんに

織子 (笑っておどけて) 全然大丈夫。朝んなったら青じんじゃって、みっともないし。ていうか昨日ごめんね、電話、みっともない

大塚 いやいや、それはいいですけど、しかしあのじいさんしょうがないな……病院とか……

織子 (遮るように、明るく努めて) なんだろうねえ……いつも通り起こそうとしただけだよ。田村さん。ベッドにいて、こうやって腕いれて起こして、いつも通りなのに急に怒っちゃって……そりゃ何の資格もないけどさ？ 善意で、え、善意？あ、うん善意だよ、善(言葉に詰まって、急に泣き出す)

大塚 あ……

織子 ごめんごめん……善意でやってたけど。伝わらんというのは、ちょっとつらいっていうか。殴られると、さすがに堪えるわ……

大塚 織子さん悪くない、織子さん悪くない。わかります……わかるんですけど、俺も今日仕事しながら引つかかって『いつも通り』って言うとしたこと

織子 うんいつも通りしたんだよ？ 田村さん

大塚 (遮って) その『いつも通り』。それ、介護士が陥りがちなんですよね。なんか、違いがあるはずなんです

織子 どういうこと？

大塚 えっと……あの、織子さん寝てもらっていいですか

織子 なになに？

大塚 あ、この机でええわ、ここに、田村さんみたいに

織子 ここに？

織子、会議用の長机の上に仰向けに寝転ぶ。

大塚、その横に立って。

大塚 起こすとき、膝立ててました？

織子 うん

大塚 スリッパは、履いてました？

織子 はいてた

大塚 目え見て、声掛けしました？

織子 してないかも

大塚、寝ている織子の背中に手を回し、身体を起こす介助をしながら。

大塚 「いいですか織子さん、起こしますよお」はいつこの時、目を見る。見ました？

織子 みてなかった、かも

大塚 そこは、絶対目を見て声掛けします。ちょっとしたことなんですけど。

織子 目と、声がけ？

大塚 目と、声がけ。です。

二人は近い距離にいる。

その時、町内に夕方5時を知らせるサイレンの大きな音が鳴る。グラウンドに設置されたスピーカーから鳴っているため、会話もままならないほど音量が大きく聞こえる。

サイレンが鳴る中、二人は離れる。

サイレンが鳴りやむと、机の上に置かれたPCに杏の顔が映る

杏は自宅からリモートでPCに接続している。

彼女は妊娠しており、体調によってはリモートで参加という形をとっている。

大塚、織子、杏に気づいて声をかける。杏も応える。

杏 こんにちは。あれ、まだ皆きてない？

織子 まあ飯田時間って感じだわ。

大塚 杏ちゃん、調子どう、貧血やつけ

杏 そうそう。休んでよくなってきたからつないだ

織子 とにかく杏ちゃん今は身体優先だからね！

杏 わかっとるよー

織子 夜、冷えるから身体冷やさないよ

杏 ラジャー

織子 よろしい

杏 ていうか織ちゃん顔大丈夫

織子 あー今度喋るね

杏 わかった。織ちゃん、めのわできてるやつ昨日棚に入れといたから。私の分10個おいてあるでよろしく

織子 お疲れー

織子、棚の中から「めのわ」と呼ばれている、藁を編んで輪にしたものを取り出す。

織子、黒板に「杏 10」と記載する。

皆の、めのわの製作状況が黒板に記載されている。

杏 皆まだならちよつと抜けてますね、また集まったら呼んでください

織子 了解ー

PCの画面から杏の顔が消える。

織子 早いわ、もう再来月には生まれてんだよ

大塚 あつという間ですねえ

織子 ほんと。あ、ありがとねさつき。目と声掛け

大塚 ああ、はい。でも、田村さんだけじゃなくて、みんな、織子さんのボラントイア、助かってますよ？

織子 どうかな

大塚 老人の話相手なったり、お弁当作ってあげたり、車乗せてあげたり……俺なんか仕事じゃなかったら無理っすわ

織子 時間だけはあるからさ、もらってる毎月75000円分くらいは飯田に還元したいし

大塚 75000円……ああ

織子 あんたもえらいよ。腹決めてお父さんの面倒見てんだから。まだ都会にいたかったでしょうに

大塚 ……いや、まあ、俺は75000円欲しさに帰ってきただけですわ

織子 なにその言い方。どうした？

グラウンドから車のクラクションが聞こえる。

大塚と織子、外を見る。

織子 青山さんだ

大塚 なんて？

青山は、運転席から何か言っているが、エンジンの音にかき消される。

織子 なにー？

車のエンジン音が止み、グラウンドから、青山の「野菜、何がいるかなと思って！」という声がする。

織子 里芋あるー？

大塚 あ、俺手伝いますわ

織子 ありがとう

と言って、大塚グラウンドに駆け出していく。

残った織子、部屋の片隅を見る。

そこには、過高く積まれた稲の藁があり、そして、藁の側には、藁で編まれた短い縄が固められている。

織子 やんないとな……

そう言って織子はブルーシートを広げて、その上で藁を編み始める。

青山佳子が笑い声と共に、大塚と集会場へやってくる。

大塚は、里芋やニンジンなどの詰まった、収穫コンテナを抱えている。

その格好から農作業を終えてやってきたらしい、60代の女性、青山は機嫌良く。

青山 お、やってるやってるう

織子 お疲れさま。野菜ありがとうね

青山 里芋いくついる？

織子 えっと、20ほど。もらいすぎ？

青山 ぜんぜん。ほしけりゃ家、取りに来て

大塚 野菜、ここ、置いときます

青山 大塚さん、助かったあ

大塚 いえいえ

青山 さあ私も参戦するよっ

織子 ゆっくりして。私も今はじめたばかり

青山 え、あれっ！

青山、織子の顔の異変に気づき、駆け寄る。

織子は藁を編み続ける。

青山 織ちゃん顔どうしたのっ

織子 ちよっと

青山 ちよっとなに

織子 田村さん

青山 何されたのっ？ いつっ？なんで？

織子 違う違う。ベッドから起こすときに、怒らせちゃって

青山 殴ることないでしょうに！

織子 違う違う、肘当たっただけ

青山 もー。心配！ 織ちゃんは心配！

織子 まあまあ

青山、いつもそうしているように、黒板の前に、野菜を並べながら言う。

青山 織ちゃんはさ、えらいよ？ 偉いけどさ、ボランテニアもほどほどによ？ いくら余裕できたって言ったって、75000円じゃ聖人君子にはなれないんだからね？ 仕事で給料もらってたって辞めてく人多いっていうが、ただでさえ介護は。ねえ？ 大塚さん

大塚 否定はしないです

織子 仕事だったら逆にむり。別の回路になっちゃう。それを言ったら青山さんだって、野菜づくり、そうでしょ？ 畑預かりまくってさ、今に身体壊すよ？

青山 私は自分のためにしとるだけ。野菜は美味しく自分の口に入るが。私はね、決めたの。もう死ぬまで、自分のために、したいことだけするの。今頃、旦那もあの世で賛成してくれてると思うの

織子 私も自分のしたいことやってるつもりだけどなあ

青山は織子の隣に座り込み、藁編みに参加している。

大塚は、二人に背を向けて、パソコンに向かってる。

青山 織ちゃん、加藤さんとこの土地の話どうしようねえ、

織子 ああ、ねえ

大塚 どの加藤？

青山 ああ「社前」の

大塚 なんやあのおばあさん、歩けんくなったらしいな

織子 畑、誰かやってくれんかなあって

青山 (5本指を広げて) 5反よ5反。無理無理。手一杯。

大塚 広っ（振り返って）5反？ 四ツ峰の方ですか？

青山 そう、3合目あたり。登山口の

大塚 えー、あそこまだ畑やってたんや。（パソコンに向き直る）

織子 昔は高原野菜すごかったんだってね。

青山 そうそう。ここと3℃ほど違うでしょ？ 昭和頃はレタスとトマトやっとなって。あと、ホントかどうかわかんないけど、りんごもできたらしい。でも、今はアレ！ アレだらけ！

大塚 ススキ

青山 ススキ！

織子 一面生えすぎて、天国みたいになってるもんね

青山 畑としては地獄よ。ジ・エンド

織子 もったいないね

青山 ベーシックインカムがちゃんと定着したら、飯田も人が増えて、畑やる人も増えると思うんだけどねえ

大塚、パソコンから手を離し、青山と織子の方を向く。

大塚 ……

織子 一人だと私も大変だからさ、せっかくだしみんなと一緒にやるのは？

青山 あーそれもいいかもね

織子 私と青山さんと、子供のころ落ちてからだろうけど杏ちゃんも畑のモチベーション絶賛上昇中だからさ、共同管理ということで

青山 杏ちゃんにも話してみよか

大塚 えっと……

みつこ こんばんはっ

やや調子外れの挨拶が大塚の言葉をかき消す。

鮮やかな赤に花柄のワンピースを着た初老の女性、黒木みつこが、ニコニコとした顔でやってくる。

青山 みーつーこおさん

大塚 ああ……

織子 こんばんは

みつこ 日、短あなっただな

青山 もう秋だねえ

織子、みつこの側にいき、生地を確認するようにみつこの着ている服に触る。

織子 うわ、みつこさん、今日の服いいねえ

みつこ 自分で作ったん

織子 かわいい。私にも作ってよ

みつこ ええよ。次の、次の、次な

織子 先約がいるの？

みつこ 裕美子さんと、杏ちゃん。

織子 売れっ子じゃん

みつこ (照れくさそうに笑う) ……

青山 あれ？ みつこさん？ 今日は一人？

みつこ 裕美子さんに乗せてもろうた。今日も病院で、車乗ったらアカン言われた

青山 (聞き慣れた様子で) うんうん

奥村 遅くなりましたあ

そこへ、紙袋を2つ抱えた奥村裕美子がやってくる。

青山 ああ

織子 お疲れさまです

大塚 こんばんは

奥村 みつこさん、これ

と、紙袋の一つをみつこに手渡す。

みつこ ごめんな、ありがとう

織子 買い物？

奥村 みつこさんの病院がてら、イオン行って、手芸屋で端切れとか、（みつこに）ねえ？ みつこさん？

織子 よかったねえ？ みつこさん

みつこ ……お茶淹れな

みつこ、発作的に、受け取った紙袋の存在を忘れるかのように床に置き、ポットが置かれた机の前に向かう。ドクダミ茶のパックを取り出し茶を入れ始める。

青山 なに？ みつこさんドクダミ茶？ 私やろうか？

みつこ お茶淹れな……

青山 先、これ片付けたら？

みつこ ……

奥村 みつこさんの日課だから、やらせてあげて

青山 ああ、ごめんごめん。みつこさん紙袋、ミシンのところに置いとくよ

みつこは夢中になって、急須に湯を注いでいる。

ドクダミ茶のかすかな香りが部屋にただよう。

奥村 青山さんLINE見てません？ よね？

青山 えっなんだっけ？ ごめん見てない（と言ってスマホを取り出す）

奥村 イオンでなんか必要だったらついにと……

青山 あらあ（スマホの画面を見て）ホントだ。ありがとうね。全然気づかなかったわ、今日はバタバタしてたから

織子 青山さん、いつもバタバタじゃんね？

奥村 収穫で忙しいって聞いてたから

青山 ほんとそうよ。こんなさ、60にもなってから肉体労働やると思わなかったもん。それ、芋とニンジン持って行ってっ

みつこ、急須と人数分の湯呑みをのせた盆を長机の上に置く。

みつこ お茶ですう

その場にいる者、それぞれ礼を言う。

みつこ 病院で先生に、車はダメってまた言われた

みつこ、同じことを口にする。皆は慣れた様子で口々になだめる。

大塚 お茶もらう人

青山・織子・奥村 はい

みつこ どこもいけやん

大塚、湯呑にドクダミ茶を注ぎながら。

大塚 おばちゃん、車は危ないで？ 医者はずしいわ

みつこ どこもいけやん

大塚 そやけど、しゃあないで。病気やもん。

奥村 私が乗せていきますよ

大塚 おばちゃん良かったな？ 奥村さんに仲良くしてもらって。

奥村 いいから、遠慮しないで。

みつこ ごめんな、ありがとう

みつこ、部屋の隅のミシンの前に座る。そして、手慣れた様子で、ミシンで服を

縫い始める。

タタタ、タタタと、穏やかな、針を縫う音が部屋に流れている。

奥村、茶を注ぎ、飲む。

大塚 おばちゃん、それ、山の神の衣装？

みつこ そうや

奥村、織子、青山の3人は部屋の隅に置かれた藁に手をかける。

藁を編みこみ、わっかの形にしていく。

そこへ、外岡雅水が部屋に入ってくる。

外岡 ういっすう

青山 遅いよお

外岡 織ちゃんは？

青山 たばこじゃない？

外岡はめのわ作りには加わらない。他の者はめのわを作り続ける。

夕暮れの集会場は徐々に祭りの準備風景となっていく。

大塚が携帯を操作し、杏に連絡する。杏の顔がPCに映る。

皆、談笑しながらも、藁編みの手を休めることはない。

青山 杏ちゃん、伊藤君今日はどっか行ってるの

杏 まだ来てないです？

青山 うん

杏 なんか用事あるって言ってたかも、わからん

青山 なに？ なんかあったの？

杏 なにが？

青山 ケンカ？ ケンカ？

外岡 え、そうなの？

杏 してないし。円満です。青山さん、すぐワイドショーみたいにするんよ。ホンマにやめてほしい

青山 (笑う) サーセン。仲いいのは知ってるんだよ？畑終わって帰るとき家の前通るでしょ、楽しそうにしゃべってる声聞こえるわーってもう私それが楽しみで遠回りしてんだから

杏 やめてください (笑) そうや思い出した氏子さんここに祭りの最終確認いくつて言ってたかもわ

奥村 いっつも大変だねえ

外岡 酒飲んでるだけでしょ？ とにかくいちいち寄合しないと決まんないからね。あの連中。ねえ？ 大塚氏

大塚 地元民を前にしてよく言いますねえ

青山 そうだ、杏ちゃん、畑一緒にやらん？

杏 畑？

青山 加藤さんこの畑が管理できる人いないから探してるみたいで。で私と織ちゃんと一緒にどうかなって、色々子供のこと落ち着いてからだろうけどね

杏 え、めっちゃやりたい。やります

青山 よかったー。じゃあちよつと話してみるわ、でも伊藤君は大丈夫？

杏 大丈夫って？

青山 はなしとかなくて

杏 いいですよ

青山 畑やりだしたらあんま動けんくなるよ、伊藤君、名古屋で就活してるし、仕事決まったらついて来てくでしょ

杏 ついてく？いやー

青山 え、やっぱり何かうまくいってない？

杏 全然良好ですから。でも名古屋でも梅坂でも就活やってるし、どうする気かよくわからんから

奥村、紙袋をもってPCに近づく。

奥村 そうだ杏ちゃん、前話したりんど飴のやつ買っといたからね

青山 いいねえ、出店のやつだ

奥村 わりに安く買えたんで当たれば荒稼ぎですよ

外岡 荒稼ぎできるほど人來んのかねえ？

青山 出店やってくれる人も、結構集まったみたいだね

外岡 杏ちゃんが動いてくれてたからね、若い子に頼まれたら、もうコロリですよ

奥村 ここじゃ拙者も若い子扱いされますぞ

外岡 本音と建前をご存知か？

青山 四つ峰の山の神様も大事だけど、結局お祭りっていったら、出店が楽しいんだよねえ

奥村 あと宴会ね。普段車で、飲む機会ないしパーツと

青山 そもそも飯田は店自体ないじゃん

大塚 懐かしいですわ。祭りのときは、家で酒呑まん親父がべろべろになって演歌なんか歌って……

奥村 大塚さんがいくつまでお祭りあったの？

大塚 平成の大合併の時……まあ、小学生くらいかなあ

みつこ まだこんなやつた

みつこ、ミシンの手を止め、30cmくらいを手で示す。

皆「小さっ」と笑う。

大塚 おばちゃん絶好調やな……まあ、20なん年ぶりや

いつの間にか、手を休めて皆が話に夢中になっている。

青山 (手を叩いて) ハイハイハイ皆の衆。楽しい出店もいいんだけど、その前に『めのわづくり1200個』のミッションをお忘れなく

奥村 何度聞いてもぞっとする数字……

外岡 何個できてんの。今

青山 200

皆 (「おお」「うわあ」など言葉にならない反応)

皆、ぞっとして、にわかには手付きが焦る。

大塚 あと1000……ということは(計算して)……あと2週間で、だいたい一人で120本ずつ

奥村 120! やばいなあ

大塚 ということは、一日あたり10本はマストか……

青山 そうだよお、びっくりしてる間も手動かしてないと、終わんないよお

奥村 がんばりましょう! ……できるのか?

青山 他の準備もてんこ盛りよお

大塚 一日何本編めます?

青山 8本

奥村 7かなあ

大塚 俺も8。外岡さんは?

外岡 私? 私は……

編むペースが著しく遅い外岡は口ごもる。

杏 (得意げに) わたし15お

皆 おおっ

奥村 令和のめのわ職人の誕生であるっ

皆、笑ったり、反応する。

外岡 (小声で) あ、杏ちゃん杏ちゃん

と、外岡は立ち上がり、PCの前へ。

外岡 頼んでたやつどこ

杏 下の棚になかった？

外岡 (棚からめのわの束を取り出し) ありがと、またお礼するから外岡、杏に向かってありがとねみたいな動きをしている

皆は、談笑しながらも、そのやりとりを見て見ぬ振りをしている。

そこへ、織子が部屋へ戻ってくる。

織子 とのちゃん、それはルール違反だわ

外岡 え、いや、うわっあれっ、織ちゃん顔どうしたの？

織子 杏ちゃんにお金渡して、めのわお願いしてたでしょ

外岡 え、いやあ

織子 ばれてるって。外ちゃん来ても手動かしてないのに、なんかいつもノルマ分できてんだもん

外岡 杏ちゃんも、いって言うてるし、お礼も払ってるし

皆の談笑が止む。

織子 払ってるって、あんたお金渡してんの？めのわ作りで買収ってどうなの

外岡 買収って、ただのバイト代ですよ

杏 いいよ私、お金もらわなくてもやるけど

織子 良くないなあ

外岡 いいじゃん誰も損してないわけし

織子 損とか得とかの話じゃない

外岡 だって私苦手だしさ

織子 皆で1200やるって、決めたでしょ

外岡 その会議の時私いなかったもん

織子 そういうこと言い出す？

外岡 まあ、決めたんだけど、でも藁の扱い慣れてないし、やれる人がやった方が効率いいわけだし

織子 効率とかそういう次元じゃないじゃん。お祭りなんだから。みんな準備するからさ、思い入れしていくわけじゃん

外岡 言いたいことはわかる。けどさ

織子 けどさじゃなくて

外岡 そもそもさ、そもそもよ？ みんなでって言う割にはさ、祭の日にはさ、女は山登らせてくれないわけでしょ？ 準備だけやらせて祭りの大事なところかさらおうっていうルールに、ノれないっていうわけ

織子 そこはさ、そういうもんだししゃあなしでしょ。ねえ、啓介

大塚 えっと、まあそこはしきたりの根幹ですしね。山の神ですし

みっこ 山の神はブサイクな女の神さんやで

大塚 そうやな。女の神様ですし、自分よりきれいな女が山に入ると、嫉妬するから、女の人はNGっていう

外岡 女の神様だって、女が好きかもしれないですけどね

織子 私言いたいのはそういうことじゃなくて、誰かに任せたりしないでみんなでコツコツ準備して、人間関係も作っていいこうっていうこと。わかる？

外岡 わかる。でもさ、旧態依然で了見狭いこと言ってるから20年前？ だっけ？ 祭りできなくなっちゃったわけで、それをさ、私たちが有志でもって復活させようとしてるんだから、こっちの言い分も少しは反映してもいいんじゃない？

口論する二人を除いて、皆、黙々と藁を編んでいる。

織子 うーん、わかった……わかんないけど。ちょっと外、出ようか

外岡 望むところだけど

と言つて、外岡を連れだつて織子、再び外に出ていく。

青山 どこ行くの？

織子 タバコ

青山 またあ？

二人の去つた集会場。

みつこのミシンと、皆の藁を編む音が響いている。

青山 なに？ あの二人はタバコ吸わんと和解できんもんなかね？

奥村 外岡氏が心配なんですよ。織子氏は

青山 外ちゃん、仕事のことではいっばいなんだよ

奥村 仕事？

青山 今休職してるでしょ。職場に戻るか、辞めてしまうか、そろそろ決めないとだつて

奥村 あのパワハラ会社？

青山 もう辞めちゃつたらつていうんだけどさ

奥村 また、鬱病ひどくなつたらねえ、せつかく飯田来て調子良くなつたのに

青山 旦那さんとの約束があるからつて

奥村 東京にいる？

青山 どこで何してもいいけど、夫婦のお金として毎月決まった額は入れるつていう

奥村 シビアー。まあでもベーシックインカムも来年までですし、そろそろ先のこと考へて動く感じですよんね

青山 手え痛あ……裕美子ちゃんさあ、例の藁叩くやつつてどこかな？

奥村 上（二階を指し）、郷土資料室

青山 なかったけどなあ

奥村 こきの横、なかったです？

青山 もっかい見てくるわ。藁やっぱ硬いわあ

奥村 私も行きます

青山と奥村が廊下側の扉から出てゆく。

みつこのミシンが止み、静寂が際立つ。

大塚、窓際でタバコを吸う。

杏 大塚さん、喫煙所いかんと

大塚 織子さんと外岡さんところに、俺おったら、気まずいやろ

杏 そらそうやなあ。（窓に座る大塚を見て）外の景色どんな感じ？

大塚 どんなんて、どうもないよ

杏 夕日沈んでくところ、すっごい綺麗じゃない？

大塚 ああ……いつも通りやなあ

杏 情緒ないわ

大塚 そういわれても

杏 飯田来てから気付いたんやけど、日が沈んで、昼から夜に変わってく時の景色が毎日違うんよ、雲がぐーってでて影がでてたり、あったかい夕陽やなって日もあるし

大塚 （外をぼーっとみつつ）ああー

杏、藁を編んでいる。

大塚、杏の手元に視線を送る。

大塚 めのわやらんなあ

杏 お祭りもうすぐやからね

大塚 そうなあ

杏 大塚さん、楽しい？

大塚 え、なにが

杏 なんかあんま表情に出んから、準備とか嫌になってたりしてないかなと思った

大塚 ああ、いや。準備大変なんはそういうもんやし

杏 そっか

大塚 気晴らしになってるよ。家と職場だけやとな、ちょっと気滅入る

杏 私も。

大塚 おばちゃんも、みんな来てくれてお祭りもできてうれしいやんな？

みつこ ……

大塚、みつこに話を振るも、みつこはミシンに集中しており気づかない。杏と大塚、笑い合う。

大塚 飯田の、田舎の人間言うても色々おるし、小言言う人もおるやろけど、まあみんな杏ちゃんらのこと好きやと思うわ

杏 私も飯田好きだよ。来て良かったって思ってる

大塚 ほんま

杏 調子悪かったから。前は……バイトして、バイトして、昼は薬局いって、夜は

大塚 ガールズバーな

杏 うん。お母さんにお金取られて……その繰り返し。めちゃくちゃ疲れてるはずなんやけど、夜になったら、ぜんぜん寝れへんくて

大塚 無理してでもお母さんと離れてよかったな

杏 それ。あとベーシックインカムの方は助かってるなあ。伊藤君と余裕ある来年の間に車買い替えとかとか話してんのよ。中古でいいからちょっとでかいやつ

大塚 あのこと……杏ちゃん、飯田好きやっていったやろ

杏 え、うん

大塚 飯にな、これ、飯の話なんやけど、ベーシックインカムのお金、出なくなったとするやん

杏 飯にとって来年で終わるけど

大塚 いや、飯に終わったとしたら、それでも飯田にはおるん？

杏 え……うん。おりたいよ

大塚 あ、そうなん

杏 うん。だって、畑も、青山さん手伝ってて、面白いかもってなってたし、子供もおつきくなったら色々考えやなあかんけどできるだけここで育てたいし……ごめん、なんで、そんなこと聞くの

大塚 え……まあ、ほら、結局ベーシックインカム終わったら、どうせまた出ていくんやろと……地元民としては……恐れるわけで

杏 そういうことな

大塚 街に行きたくって、18人なってここ出て、大阪に出た。大阪は、ゴミゴミ、ギスギスしてて、俺はよううまいことやっついていけんかった。けどな、そうや言うても、やっぱり特別に飯田がいい町とは思われへんねんわ。正直。お金が出るから、辛うじて来たけど、でも、出んくなったらまた出てく。皆、そんな感じなんかなって

杏 わからんよ、なってみると

外から、グラウンドの砂を巻き上げるタイヤの音がする。

少しして、早川由衣が集会所へやってくる。

早川 大塚さん、喫煙所あっち！部屋で吸わない！

大塚、タバコをしまっ。

喫煙所から織子と外岡も戻ってきている。

織子 あ早川さん

外岡 こんばんは

早川 顔どうしたの？

織子 ちよつと、打っちゃって。パート？遅かったね。あれ疲れてる？

早川 パートの後にボランティアがありました

織子 ボランティア？

早川 友達か道の駅で移動販売始めるんですけど、メニュー表のデザイン打ち合わせ
てて、打ち合わせギャラはゼロという

外岡 フリーランスあるある

早川 なのでこれは精神的疲労です。全員揃ってます？

大塚 あと、伊藤君だけ

青山と奥村、藁を叩く横槌を持って、部屋へ戻ってくる。

青山 ああ、おつかれ由衣ちゃん

奥村 こんばんは

早川 こんばんは。進みますか？

青山 やつとるよお

いそいそと青山は藁編みを再開する。

一人、また一人とそれにならう。皆、藁を編みながら話す。

以降の会話の途中でグラウンドに車が入ってくる音が聞こえる。

早川 伊藤くん来たら一回、打ち合わせしませんか？ 買うものが増えてきて、予算
の相談したいんで

大塚 神楽の太鼓、買えそうです？

早川 うん、だから打ち合わせたい。けど新品は絶対無理

大塚 中古でぜんぜん大丈夫っす

織子 やっぱ予算厳しそう？

早川 ですね。……（かしこまって）あの、言いにくいんですけど、外岡さん、お祭りの賛助金のことだけど

外岡 私、（不服を言おうとして飲み込んで）……いや、はい。払います。

早川 原資乏しいうえに、みんな建替えも難しいんで……（明るく努めて）いつまでとは言わないんで、よろしくおねがいます。

外岡 はい

織子 お金お金お金だなあ

伊藤、グラウンド側の勝手口から部屋に入ってくる。

伊藤 お金お金お金ですよ

織子 あー伊藤君

伊藤 出産費用、ベビーベッド、お宮参り、車、生命保険、エトセトラエトセトラ

織子 まあ何かとかかるわな

伊藤 早く仕事をね、とにかくね

外岡 就活どうなん

伊藤 梅坂で事務系の仕事探してるんですけどよっぽど経験者しかとらんですね

外岡 伊藤君はそこまで焦んなくても良くない？来年中に決めればさ

伊藤 そうなんですけどねえ

織子 とりあえず落ち着いてやりなよ、あんま焦っていると家にも持ち込むでしょ、杏ちゃんと赤ちゃんの健康だけ集中しなよ

伊藤 はい、ですねえ。ひとまず健康に、無事にですねえ

その時、ミシンの前で、窓の外を見ていたみつこ、様子がおかしい。

みつこ ……衣装作つとんの。おばあちゃんの訪問着あったやろ？ お母さんな、まやちゃんに着せたいと思うとったけどな、あんた洋服しか着いひんからな、使うたろう

思うとんの

と、虚空を回いて、ここにいない誰かと会話をしている。

奥村 あれ、みつこさん？（立ち上がり、みつこの側へ行く）

青山 あらら

大塚 おばちゃん？

みつこ ……まやちゃんがな、お祭りのときな、手水舎の角で頭切ったもんで、傷残ってしもたん

大塚 またおかしいなりだしよった

杏 今日なんかあったん？

奥村、さつとみつこの側にいき、背中をさする。

青山 みつこさーん……さっきまでご機嫌だったのにね

織子 啓介なんか言った？

大塚 なんも言うてないですよ

みつこ ……そやな、山の神さんが踊るんな。楽しみな、まやちゃんも来るん？ まやちゃん来るん？

みつこが部屋を徘徊しはじめるので、奥村はその後ろをついて回る。

奥村 うん、まやちゃん来るから

青山 まやちゃんきつと来るよ

皆、声をかけるなどしてみつこを落ち着かせる。

奥村 葉

織子、葉が入ったみつこのポーチを奥村に渡す。

みつこ 四ツ峰神社から山に登ってくんよ、今ススキも綺麗にみえるでー

みつこ、勝手口から外へ出ていこうとする。

早川 みつこさん、もう遅いから山入れないよ

奥村 みつこさん、玄関の方でまやちゃんまってみよ(皆に)じゃあ

織子・青山 よろしく

奥村とみつこ、廊下側の出口から部屋を出ていく。

大塚 どないしたんやろ、最近は調子よかったのに

早川 裕美子さんに面倒見てもらってね

青山 みつこさんの「まやちゃん、まやちゃん」って、あれ、きついわ。いもしない娘さん呼んでんじゃん？ 私さあ……

外岡 (遮って) え？ 子供って本当にいないわけ？

青山 おらんよ。ねえ？

大塚 いや、おらんでしょ

青山 なんかさ、私も娘がおるでさあ、どうしようもなく辛くなってくるわ

早川 よつぼど子供、ほしかったんでしょね。そういう幻聴を聞くことは

織子 さあ、わかんないことだらけ

青山 ずっとあんなんでこんな田舎で一人で暮らしてんだよ。さみしいよ

織子、みつこのミシンに近づき、作業途中の神楽衣装に触れる。

織子 この縫製見てよ、細かい……ほんと丁寧に作ってあるわ

早川 みつこさんをお願いできてよかったですね

外岡 織ちゃんが声かけたんだっけ

織子 そうだよ。啓介、あんたこれ着て神楽踊るんだよ

大塚 いや、知ってますけど

織子 ちゃーんと踊らんと

大塚 オカンかよ。踊りますよ。ちゃんと踊りたいから、稽古がしたいんですけどね、早くこれ終わらせて……えっ。ちよつとなになに？

織子、大塚に背後から神楽の衣装を羽織らせる。

大塚・織子以外 おーっ

大塚 ちよつと、藁がつくでしよ、藁が……

織子 へむかしむかしのそのむかし

大塚以外全員 へ梅坂浜のはてのはて

へ海の神さんおったんや

へ四つ峰山のそのねきに

青山 へ山の神さんおったんじゃ、あ？ ちがう「おったんや」だ

大塚以外全員（ばらばらに） へあらさーほらさーほいさっさ

大塚 何もかもがぐちゃぐちゃですけど

織子 ノリ悪いわ。ほら立って立って

大塚 なにい……もう……

伊藤の携帯が鳴って、外へ出ていく。

大塚、渋々立ち上がり。少し踊ってみる。

皆がリズムをとり、歌っている中、みつこと奥村が戻ってくる。

みつこ、先ほどより様子が落ち着いている。

奥村 どういう展開だろう？ これは

織子 みつこさん、服借りてるよ。啓介、ほら踊って

大塚 もう……

みつこ、部屋の隅に置かれていた段ボールから手平金を取り出す。以下、皆の囃子に合わせて、みつこは手平金で演奏する。

※手平金……シンバルのような形の和楽器。神楽等で使用される。

青山 良いねえ！

全員 へむかしむかしのそのむかし

へ梅坂浜のはてのはて

へ海の神さんおったんや

へ四つ峰山のそのねきに

へ山の神さんおったんや

へあらさーほらさーほいさっさ

手拍子を打つもの、一緒に踊るものなど様々だ。その中で、大塚、いよいよ本格的に踊りだそうかというところで、伊藤戻ってくる。

伊藤 すいません！

皆の踊りと囃子が止まる。

伊藤 あの、ちょっとこれ、僕が悪いんですけど、みなさん、氏子総代さんとの挨拶。結局誰も言ってないですよね

織子 え……

伊藤 ずっと前にうやむやになって、そのままでしたよね

織子 そっか誰もいってないのか。まずいか

外岡 え、怒られた？

伊藤 強めのアドバイス？ いただきました

外岡 それ、怒られてんじゃん

織子 何か言ってた？

伊藤 祭りも差し迫ってるのに、報告の頻度が少なすぎると。いや、もうほんとに僕が、わるい

織子 皆、忘れてたんだからしょうがないじゃん

外岡 自分たちなんにもしなくせに、上から目線が腹立つう

青山 とのちゃん、手動かしてえ

伊藤 あっ、外岡さんに朗報です。当日なんですけど山、入れるみたいです

外岡 え、マジ？

伊藤 はい。ただ、神事の部分だけ、女性は席を外してほしいということ

外岡 はあ？ で？

伊藤 神事のあと、山から谷に向けて矢を射るっていうパフォーマンス？ 的なのがあるんですけど、こっちは参加してもよいという話です

外岡 ん？

伊藤 ですから、整理するのですね、当日、皆さん、四ツ峰神社に向かいます。め
のわを奉納して子孫繁栄を祈ります。そして、四ツ峰の山道を皆で「登られい登られ
い」の掛け声とともに、山頂の祠まで参ります。でっ、ここですね、いったん、女
性の方々は山から下りていただきます。その間、祠の前で、神職さんが祝詞を上げ
られます。そのあと、五穀豊穰祈願のために、山頂から谷に向けて矢を射ります。
ここ。ここは女性は参加してよいと。で、それが終わって下山して、神楽と宴会から
の

外岡 (遮って) 待って待って、それ、私たち山往復してない？

伊藤 えっと……

奥村 登って下ってまた登ってるね

伊藤 (想像して) そう、なり、ます……ね。はい

外岡 だるいよ。順番いじってみようよ

伊藤 おっと、そんな簡単に言われても……あの、そこは、「山登り」「祝詞」「弓矢」
ということ。はい

外岡 ということであって「山登り」「弓矢」「祝詞」でいいでしょ

伊藤 すいません、そこは「山登り」「祝詞」「弓矢」で

外岡 じゃあなに。山登り、女子下山、祝詞、女子登山、弓矢ってこと！？こんなこと許していいんですか、有権者の皆さん（周りに）

伊藤 いや確かにちよつとおかしいとは思いますが、これでも交渉して氏子さんに譲歩してもらったんです

外岡 いちいちこっちのヤル気そいでくんな、ここのしきたりは

青山 ああつ。もうわかったわかった、じゃあ「祝詞」「山登り」「弓矢」でいい、もうそれでいい。はい、編もう！ みんな、藁編もう！

伊藤 よかないですよ、それ、祝詞どこで上げてんですか？

青山 知らん、もうそのへんでいいじゃん

伊藤 ざっくりしてる……

織子 もう一回氏子さんに確認しよ、伊藤くん。

伊藤 あのむき出しの人間性にまた立ち向かえと？

早川 あとお祭りで言うと、こっちでやる出店の件は、進んでる？

奥村 準備してるよー

早川 当日のけんちん汁は？

青山 大丈夫。振る舞いの具材は、飯田の農家さんから集められるように話していたで

早川 さすが。あとは……

青山 「めのわ」の製作状況の報告しまーす。今2000個終わって、あと1000個なんで、だいたい一人100個ですー。

奥村 終わる気がしない！

青山 ちなみにみんな今日は全然進んでませーん。

織子 一番うまい人が教えるとかしたほうがよくない？

外岡 じゃあ杏ちゃんじゃない？

早川 じゃあできない人は杏ちゃんに教わりつつ。まだ2週間あるから、やりきりましようー

青山 とにかく手動かきな終わらないよ

大塚 あの、俺からも……いいですか？

早川 どうぞ

青山 いいけど、手動かしながら話そう

大塚 いや、ちょっと……聞いてません？

織子 なに、啓介

大塚 いや……その、ベーシックインカム中止になるかもって

皆、手を止める。

みつこだけは、ミシンで衣装を縫い続けている。

青山 ちゅ……ええ？

大塚 いや、まだ、正確な情報はないんですけど、だから、まだ言わんほうがいいかなとか……迷ってたんですけど、僕だけ話聞いているっていうのも気持ち悪……

全員 であー

皆、どつと笑う。

伊藤は落ち着かない様子。

大塚 え……。

織子 確か去年もこの時期だったよね？

青山 10月だもん、予算決める段になったら出てくるよね。この話。

早川 またあの議員騒いでんでしょ？自己責任好きの

外岡 デコヤマあ

早川 最初からベーシックインカムを乞食扱いしてさ

青山 そんな言い方やめてよ

早川 ネットの意見ですよ

外岡 あれ、デコヤマは、ネットで騒いでる連中、ただ困り込みたいだけでしょ

青山 私こっち来てからSNSなんかもう見ないよ、気分悪いもん

大塚 いやまあ、僕も見ないんですけど

織子 ていうかそれ、誰情報？

大塚 消防団のケンジさん

織子 ほら、でしょ？

大塚 いや、10月からの梅阪の予算編成でしょ、そこでベーシックインカムが今年度で終わるかもって。

外岡 ほらほら、去年とおんなじじゃん

伊藤 あのこれってどれくらい確定の話ですか

織子 啓介、「かも」って、話なんだよね

大塚 はい、かもっていう、さっき久しぶりに見ましたけど、俺らのPR動画、コメントやら低評価やらやけに多くないですか？

伊藤、スマホを取り出して、操作している。

青山、藁を再び編み始めている。

青山 そんな、ライフラインに関わることよ？ 2年目で急に打ち切るって、あるのかなあ

杏 そうだよね急すぎるよね

早川 言ってもあと1年だけですしね

外村 考えにくいよね？

奥村 急な話過ぎるもんね

早川 うん、そうだと思うよ、今回は今までとは違って反対が多くてみたいなことな
んですか

大塚 いや、僕もわかんないんですよ、全然そういうもしかしたらっていう話を聞いた
ただけなんで、ただ反対の根回しが段取りがよくなってるっていうてたんですよ。

早川 消防団の？

大塚 はい、ケンジさんが

青山 もしかしてだしね

織子 もしかして、だ

伊藤 大塚さん的には、聞いた感じ何%くらいなんですか

大塚 いやあ、どうかなあ、ちょっと、わからん、ごめんやけど、

奥村 もしかして、ならねえ、30%くらいってところですかね

早川 他の地域に比べて、お祭りで地域貢献して成果出そうとしてるんだし

青山 そうだよねえ、そこは評価してもらわないとおかしいよね

奥村 うんうんうん、

織子 うんそうねえ、

大塚 なんか、すみません不確定なことって

織子 でも、共有は大事だから、

大塚 でも、気になりませんか？

青山 気になるけど、祭は待ってくれんよ？ ひとまず「めのわ」つくらんと、あと
1000本なんだから

早川 そうですよねえ、もしかしての話より、確実にあと1000本だしね

奥村 やりましようかー

早川 やりましようー

大塚 やりましようか

伊藤 あの、大塚さん実際何%だと思います？何%ですかね、何%……
皆、藁を編んでいる。

【第二幕】

第一幕より数日が経った夕刻。

朝から降り続いていた雨は、時間を増すごとに強さを増している。

青山、織子、奥村、早川、大塚、みつこが、集会所に集い、祭の準備を行っている。

祭で奉納する「めのわ」を作るため、藁を編む人々。

一見するところ、その様子は、一幕当時の状況と変わりない。しかし、思いつめたような沈鬱な静寂が漂っている。

大塚は一人、イヤフォンをして、部屋の隅で神楽の練習をしている。

早川はパソコンを開いて作業をしている。早川の足元には神楽で使用する太鼓が入った段ボールが置かれている。

ただだ、ただだ、と、雨が小刻みに集会所の窓をたたく。

織子、藁を編む手を止めて、ため息をつく。

織子 ……いやあ、ちよっと手につかんなあ

奥村ほんと、ねえ

織子 釈然としないわ

青山 (同意して) 勝手すぎるがあ

奥村 ああいうの事なかれ主義っていうか、どう考えてんでしょうね

青山 あの課長っていうオッサン、なに？ おんなじ人間よ？ 自分が同じ立場になつたらって想像したら、あんな冷酷な顔できんて

織子 担当者一人捕まえても何にも解決しないよ

奥村 でも、納得するまで、ちゃんと説明すべきでしょ、腹立ちますよね

青山 私なんか毎晩布団入って寝ようとした途端、はらわた煮えくり返ってきてさ、昨日なんか寝たん11時よ？

織子 いつもが早すぎんよ

早川 批判なんてはじめからあったのによすよ？ ここに来て辞めるようなら、初めからやらなければいいんですよね、

織子 市民からの抗議が集中って、誰がどうやって抗議したんだろう？

早川 ネットじゃないですか？ 祭のPVも炎上しましたし

奥村 「お金もらってんだからもっと生産的なことしろ」とか、

青山 生産的って何よ。私野菜作っとるけどね！ ああ！ あと600本！祭り今週末だよ！

手を止めていた織子も、再び藁を編み始める

時折、大きくなりつつある雨音に、窓の方を見る人もいる。

織子 あと半年か

青山 中止準備って言われてももどうにもできんが。頭が切り替わらんよ

織子 私だって仕事見つけるなんて、無理でしょこの年で

早川 経済的には裕美子さんが今のとこ一番盤石ですかね？

奥村 いやそんなことないですよ

織子 え、あんじゃん仕事、日本語教師

奥村 個人レッスンですよ？ 生徒と授業時間増やせばって感じですけど限界がありますし

織子 そうなんだ

奥村 週何回か、梅坂の学校で教えるとか……？

青山 梅坂遠くない？

奥村 今でもみつこさんの病院で毎週通ってますし……ちよūd募集かかっているんですよね。応募してみますかね、日本語学校

青山 それがいいよ。今のうちに

奥村、みつこを見る。

奥村 あ、でも……迷うなあ

青山 なになにに？

織子 ああ、みつこさん？ 病院心配してんの？

奥村 いや、まあはい

みつこ わたしかて車運転したい

奥村 うんうん

織子 みつ子さん、病院、昔はどうしてたの？ バス？

みつこ バス

織子 じゃあさ、行きはバスで梅坂まで行ってもらってさ、仕事終わりに裕美子さんに拾ってもらおうとか

青山 それがいいわ、だったら裕美子ちゃん、負担減るもんね？

奥村 いや、いい。いいです。負担じゃないですし。行きも帰りも、今まで通り送りますし。病院の時間もまちまちだもん。

織子 裕美子さん……

青山 あんたねえ……

青山、みつこに聞こえないよう小声になり。

青山 あのね、いくら親しいたって親兄弟じゃないんだからさ、親切もさ、どこかで分別つけたほうがいいと思うの

織子 私聞いたよ？ みつこさん、なんかお姉さんおるらしいじゃん？

奥村 あ、うん、梅坂に。疎遠らしいけど

織子 近いじゃん

青山 疎遠で、みつこさんみたいな妹、疎遠にしちゃだめでしょ？

織子 確かに。病気の妹ほったらかして何をしとるっちゅう話よ

奥村 さあ……家庭には家庭の事情があるもんだし。大丈夫ですよ私は

青山 大丈夫っていうけどさ、一人では大変だが、連絡してくれたら私たちも梅坂行くときとか乗せてくし、ねえ織ちゃんもいいよね

織子 いいよねって何が

青山 だから「皆でみつこさん送ってこう」って話

織子 分別つけなくて話じゃなかったっけ？

青山 そうだけど裕美子ちゃんがやるなら、一人は大変だからさ

織子 まあ、実際バスで往復ってのも大変か。分かったわかった。グループラインにみつこさん病院行く予定共有しといてよ、買い物行くついでとかに乗せてくわ

奥村 助かります

青山 チーム。こういう時はワンチームでやりましょう

織子 古い

青山 チーム裕美子？チームみつこか

奥村 どっちもどっちかなー

青山 由衣ちゃんもいいよね！

早川、PCでメールを返していた手を止めて、振り返る。

早川 はい。あ、なんでしたっけ……みつこさん？

青山 そう、みつこさん病院とかの送り迎え皆で乗せてこうって話

早川 はい、なるほど。全然、梅坂よくいくのはい

青山 ありがとうー由衣ちゃんもチームみつこね

早川 なんですかそれ

早川、PCに向き直る。

奥村 ありがとうございます。織子さん、あっちの方は続けるんですか？ ご老人のボランティア

織子 いやいやいや、私は今まで通りは無理。仕事しないと。

奥村 あれって、まったくお金のやりとり発生してない？

織子 ないよ。ないけど、買い物行ったら行ったで好きなもん買っていいよって言うてくれたり、ガソリン代くれたり

奥村 もういつそのこと便利屋みたいにな、お金もらってもいいんじゃないですか？ お金もらったほうが続けられるでしょ？

織子 いや、だめだよ。対価もらいだしたらさ、おじいちゃんおばあちゃんの家族がいい顔しないもん。

青山 そうかな？

織子 今は近所の奇特な世話焼きの人って感じで見てくれるけど、お金もらうとなると面倒じゃん。ニーズとか考えたり、勉強したりさ……いや違う、それは違うんだよなあ……どうしよ。どうする青山さん

青山 どうもこうもないが……ベーシックインカム三年のはずだったんだよ

織子 そうなんだけど……

青山 年金もらうまであと……ああ、考えたくもない。好きなことだけやってても生きていけんか……

早川、作業の手を止めて足元の段ボールをあけながら。

早川 あの

青山 ごめんごめん手動かすね

早川 じゃなくて

そのとき、皆のスマホがけたたましくなる。

豪雨到来を告げるアラートである。

皆、「うわ」「えっ」など驚く。

織子 ああ、100ミリだって。

青山 水門閉めてもらって正解だったわ。

大塚 今警戒レベル2ですけど、3まで上がるかもですね

織子 3が高齢者避難で、4まで行ったら全員避難だよ

大塚 はい

織子 一区切りついたら家戻って荷物まとめたいほうがいいか

青山 まだ半分あるけど？祭り今週末だよ間に合う？

織子 最悪、家でやるか

早川 とりあえず今日一人20個は、絶対ですね。

織子 了解、20個ね。

早川、またパソコンの前に戻り、メールを見て。

早川 え、なにこれ、はあ？

青山 どうしたのゆいちゃん

早川 神社の氏子さん。出店の数の確認。伊藤君連絡してない。「報告されないことは、こちらとしても協力しかねます」ですって。うわあ……もう、(小さく舌打ちして)頼んでたのに……

織子 はい、怒らない怒らない。

早川 えー最悪なんだけど

織子 今週はみんな、ベーシックインカムのことばたばただし

早川 私、前に話したんですけどね

奥村 ゆいちゃんは、どうするの？ これから。

早川 ええ？（不機嫌に返答する）

織子 ほら、当たらない当たらない

奥村 ごめん。いや

早川 あ、ごめんなさい。……仕事ですか？ 仕事は……というか、飯田は離れるか
もです

奥村 え……そう

織子 なんで？

早川 単純にここ仕事ないし。ベーシックインカムは生活費、残りをイラストで稼ぐ
っていうサイクルが崩れて、イラストで生活費稼げない私が悪いんですけど

奥村 東京に、戻る？

早川 いや実家まで戻るか、とか

青山 桑名？

早川 はい。母が。足悪いんで

青山 それは心配だね

早川 うち、姉がいるんで姉か私どっちか実家戻るかかって話すんですけど。「あなたは
別に定職もないし、どこ住むでもいいでしょ」とか言われて、いやいやなにそれって
いう。あっちは子供いて動きたくないから言うんですけど

奥村 うちも姉がおんなじ感じで家庭あるけどさ、なんか伝わらん部分はあるよねえ

早川 ほんとに。でじゃあ私が戻るかかって考えたら、母がね、姉の家族と住みたいっ
て言ってるみたいで。母は私のことあんまりなんですよ

青山 そんな

早川 結婚しない、主婦じゃない、子供いない。かと言って就職もしない

奥村 耳が痛い

早川 裕美子さんはいいじゃないですか、手に職あるっていうか

奥村 いやいや

青山 由衣ちゃんもちゃんとね、絵書いてお金もらってるんだからすごいよ、私かけないよあんなに

早川 一枚かいて一万とかですよ

青山 すごいが一万円もらえたら

早川 フルカラーで。構図から打ち合わせてアドビとかのソフト代もかかって、もうほんと……あ、窓あいてる

早川、わずかに隙間の空いていた窓を閉める。

隙間から雨が入り、床が濡れている。早川、雑巾で床を吹く。

青山 私も、今更戻るところもないからねえ

織子 青山さんは家残してるんでしょ？

青山 ないよ。家売っぱらって来たんだから。

織子 えー思い切るねえ

奥村 私も。75000円だけじゃ不安でしたし

織子 考えたら私なんにもないわ。お金もなんも、空っぽだわ

奥村 空っぽ？

織子 本当よ。空っぽ

青山 息子がおるが。大事な息子が

奥村 そうそう。苦労して一人で育てあげたんでしょう？

織子 独り立ちしちゃって、今はもう誰かの男だもん……そうだよなあ、息子いたからバランスが取れてたんだよなあ……自分ひとりで、自分のバランスがあんまりとれない。改めて

奥村 それ、わかる

織子 おお、わかってくれるか、おぬし

奥村 私、父が死んで30年ちかく母親の面倒見てたじゃないですか？ 生きてるときは、この人のせいで結婚できないとか思ってたけど、いざ死なれると、生活がうまくできない、ひとりの渡世……っていう。よしっ、めのわ20個終わりっ

織子 裕美子さん上達してない？

青山 私、終わる気がしない。ああ痛い。肩痛いー

織子 私も、ほらこれ湿布こっちもこっちも

奥村 織ちゃんか。めっちゃ湿布の匂いするなって

織子 泣けてくるわ

青山 ああっ終わらんっ……もう、外ちゃんは？ 連絡ないの

織子 ない、伊藤君も既読つかん

奥村 皆どうしたんでしょうね

青山 集まってやろう言うと思ったが？ 家じゃできん言うと思ったが？

織子 悶々とするだけなのに、こんな天気家にいてもさ。

早川、雑巾をバケツに向けて放り投げる。バケツが机から落ちて、激しい音が響く。周りぎよっとする。

早川 あ、いや、えっと、あの、ごめんなさい。あの……一回電話してみませんか？

織子 えっと

早川 外岡さん、伊藤君。とにかくやらないと、マジで祭に間に合わない

織子 ああ、うん

杏、PCにログインし顔が画面に映る。皆反応する。

杏 ごめんなさい遅くなりました

織子 あー杏ちゃん。大丈夫？調子悪かった？

杏 調子は大丈夫

青山 杏ちゃん、伊藤君知らんかな

杏 ……

青山 あれ、杏ちゃん？

奥村 画面固まった？

杏、鼻をすすするような、泣く直前のような音をさせる。

杏 ごめんちょっと

杏のカメラが切られる。

奥村 あれ

織子 え、どうした？

青山 なんか、あったんかな

織子 伊藤君？

青山 わからん

ティツシユを抜く音が聞こえてから、杏が再びカメラに映る。

織子 大丈夫？

杏 うん、ちょっと、青山さん

青山 どうしたの

杏 畑の話無理かも

青山 えっと、なんか伊藤君と家で喋ったの

杏 うん

青山 そっか、どんな感じだった

杏 なんか「飯田で仕事見つからんから名古屋戻る」言うてて。私は「飯田から通えるところで仕事探してほしい」って言ったけど。でも、なんかそもそも子供のこと面倒見ながら畑やるのは無理やろって言われて

青山 うーん仕事のことはあるだろうけど、私は杏ちゃんがやりたいなら絶対、畑もやった方がいいと思うけどな

奥村 自分の大事にしたい部分だもんね、子供どこで育てるとかって全然変わってくると思うし

杏 うん。なんか、そういうところが伝わってない

青山 そうだよね。杏ちゃん、子供はさ、皆で面倒みたらいいわ。畑仕事してる間は代わりに誰かが子供は見とったらいい。こんだけ大人がおるしできると思うの

杏 ありがとう

外岡が入ってくる。雨で、下半身がズクズクに濡れている。

外岡 ごめんなさい、遅れました

早川 遅れてます

織子 電話しようと思ってた

外岡 ごめん

織子 どうしてなの

外岡 会社の面談受けてて

織子 ああ、どうなった

外岡 決まった。復職する

青山 えっ

織子 辞めるっていったじゃん

外岡 うんまあ、でも、ベーシックインカム無くなるなら、仕事はしないとだし

奥村 名古屋に戻る？

外岡 うん

奥村 もうやめる話してるんだと思ってた

外岡 まあ、そうだけど、一言で言えば仕方がない

青山 心配だわ。あんたまた心病やんじゃわないか

外岡 まあこつち来て、ずいぶんよくなったんで

青山 せっかく良くなったのに調子悪くした場所に戻るってそれは変なことじゃないかなあ

外岡 変でも、やんないと

織子 リモートじゃダメなの

外岡 休職のブランクがあるから、いきなり完全在宅は無理って

織子 他にも仕事あるでしょ、職歴もあるんだし

外岡 あれから、旦那とも話して。「ベーシックインカムも出なくなるんだったら、わざわざ限界集落に住む理由なくない？」って

織子 でたな旦那節。で

外岡 なんか一理あるかなという納得もあり

織子 納得すんなよ

外岡 飯田で生まれたわけでもないし、自然があるところならほかにもあるし、ここじゃなきやいけない理由ってあんのかって

早川 あの、外岡さん、色々思うところあると思うんですけど、藁編みながらでもいいですか？

外岡 あ、すいません。あの、早川さんこれもって帰ってでもいいですか？

早川 持って帰る？

外岡 みんな帰らないの？ 雨、やばいみたいですけど。

織子 うん。だからキリのいいところで帰ろうって。さっき。

早川 え、あの、家でやれたらいいんですけどやれます？

外岡 えっと……別にここでやるのも家でやるのも、一緒じゃないかって

早川 家でやれます？

外岡 あれ、信用されてないのかな？

早川 いや、そういうことじゃなくって

外岡 やりますよ？

早川 じゃあ。はい

外岡 織ちゃん

織子 ごめん、始めちゃった分だけ終わらせるから

外岡 はい

外岡、織子を待ちつつ、手持ち無沙汰なので藁を編み始める。

伊藤、入ってくる。杏が映る画面を一瞥するが声はかけない。

みつこ、ミシンを動かす手を止めて、不意に動いてお茶を入れ始める。

青山 来た来た

伊藤 すいません

織子 もう雨ひどいから持ち帰る準備しといて

伊藤 ああ、はい。あの、なんか湿布みたいな匂いしません？ めっちゃくさいですよね？

織子 わたしの湿布だよ

伊藤 あっ、ごめんなさい

青山 伊藤くん、子供のことで色々心配だと思うんだけどさ、皆で協力してサポートするから大丈夫だからね

伊藤 えっと（杏に）なんか話した？

杏 別に

織子 青山さんまだまとまってないだろうから二人の中で

青山 わかっとるよ、私たちは、サポートするっていうのだけ言いたかったの、畑のこともね、皆でやるもんだからさ

伊藤 いや、畑のことは、ていうかさつき話したじゃん

杏 まだ終わってない

伊藤 無理って話になったことない？

杏 納得してない

奥村 まあまあ、揉めないでよ二人とも

伊藤 いや大丈夫です。(杏に)畑っていうけど、子供のこともあるし飯田にずっといるかわかんないでしょ。無責任でしょ、「土も野菜も生きものだ」って青山さんも言うてたでしょ

青山 え？ いったっけ

伊藤 あ、違う、別のひとか

杏 ていうか無責任じゃないし、ここずっといるし

伊藤 いや、ずっとって、え、だってベーシックインカムもないし仕事もないじゃん、生活費どうするのよ

杏 だからベーシックインカムから貯金してた分と、バイトの分でしばらく回るから

伊藤 今だけでしょそれは。むしろどんどん小学校行くくらいまでに貯金してかないとでしょ。生活費も子供一人増えたら水道代とか五千円くらい増えるって言うし

杏 もうその話わかった！水道の話私が教えたやつやからどや顔でいわんで！

伊藤 いやそれはごめんけど、今はとりあえず安定させたいんだけど、そんな変な話か？

杏 別にずっとバイトでって言ってないから、しばらくは回るから、ここで今の生活続けながらお互いやりたいこととかできるように考えればって言うとなんか

伊藤 いやもうここで話すのやめよう

みつこ机の上にお茶を並べている。

みつこ お茶ですう

みつこに返事をする者もいるが一幕の時ほど活気はない。

奥村、お茶を受け取る。

奥村 ほら、みつこさんお茶入れてくれたからまずは一息……

伊藤 今いいです

奥村 ああ、はい

織子 だめだ。いったん解散しよう。天気も霽囲気も悪すぎるわ。解散

皆、手を止める。青山だけは手を止めない。

皆片付けを始めている。みつこの入れたお茶が、何人分か手を付けられずに机に並んでいる。

織子、ずっとイヤフォンをして部屋の隅で神楽の稽古をしている大塚の肩をたたく。

大塚 へ？

織子 啓介、解散。雨

大塚 えー、もうちょっとやらせて

早川 あの、解散する前に、皆さん、これ封筒。お祭りの賛助金、お願いします。伊藤君、外岡さん、先月分払ってないんで、2か月分8千円。明日までお願いします。

早川が集金封筒を皆に配る。

皆すぐにお金を出さない。財布を探す動きはするが出さない。

外岡、封筒をみつめて固まる。

青山、一心に藁を編んでいる。

大塚、再び、部屋の隅で神楽の音とりをしている。早川、ノートパソコンを開き、やけに強い勢いでタイピングしている。

早川 明日以降は毎日集まって、めのわ作り中心に他のお祭りの準備も進めていくん

で、よろしく願います

外岡 これ今まだ半分しかできてなくて、今週末まであと600個ですよ

青山 そうだよー急ぐよー

織子 青山さん、きりないからさ。わかるけど

青山 だめ、ちゃんと終わらせないと

外岡 ……すみません、や、まあ、うーん、なんか……。んー、や、なんか、んー

外岡、涙をこぼし始める。

青山 外ちゃん。手動かさないと、泣きながらでもやらんと

外岡 ごめんなさい私やっぱ無理。無理だと思います。むり

青山 無理はわかったから。手動かして

外岡 ごめんなさいほんとに無理。無理です

織子 なにが無理なの

外岡 や、そんな、毎日20、やれないしこんなこと本当になんていうか

織子 20本のノルマがやれないってこと？

外岡 そういうことじゃなくて。ちょっともう、なんていうかいっぱいいいっぱいで。まあ、みんなには悪いとは思いますが。ごめんなさい。無理です。

青山 でも、やるしかないんだよ？ やるしかないよ、私たちやるしかないんだよ

外岡 何か……お祭り自体も参加できないっていうか

織子 えっ、何言ってるの。

外岡 正直なんでこんなお金にもならないことに夜まで時間かけなきゃいけないのかわかんないっていうか、来年からのことも考えなきゃいけないわけで、皆いっぱいっばいじゃん

早川 いや、外岡さんがやってるの、めのわだけで。私お金の管理もメールとかも夜もやって、その態度は違くないですか

大塚が神楽の音を口ずさみ、指で机をたたきながら音をとっている。

大塚 たんすか、たんたんか、これ、違うか、たんすかたんたん

織子 ごめん啓介うるさい

大塚、聞こえないフリをして、さらに指で机をたたき続ける。

大塚 たんすかたん、たんすかたん、

乱暴に打つ、早川のキーボードの音。

織子、たまらなくなる。廊下側の扉を「バン」と音を立てて開け、その場を去っていく。

集会場が静まる。

みつこ、部屋を徘徊しながら子守唄を歌い始める。

青山 ああ、みつこさん

杏 あ……

奥村がみつこを落ち着かせる。

みつこ まやちゃん、まやちゃん、いつ来てくれるのうち泊まってくやろ

奥村 みつこさん

みつこ お祭り楽しみやなあ

奥村 ここ、座ろう、ね

奥村、早川、みつこを椅子に座らせ、薬を飲ませる。

問。

伊藤 ……やめましょうよ。もう祭りも、全部やめましょう

奥村 ……いやいや、それは

杏 は？ マジで言うどんの？

伊藤 いや、もうやめましょう。皆いっぱいはいんだから、無理してやるようなことじゃない

青山 伊藤くん、わかるよ。わかるけど

伊藤 この状況でお祭りって、誰のためにもならないでしょう。そんなことより、考
えなきゃいけないこと、あるんだから

外岡、早川に封筒を差し出す。

外岡 早川さん、これ

早川 えっ、あ、ありがとう

外岡 すいません。お返しします。やっぱり祭りも参加しません。

早川 え

外岡 あと、祭りの資金について、今まで出してた賛助金返してもらおうことできません
か

早川 いや、え、そんな急に

青山 外ちゃんっ

外岡 返してください

早川 無理です

外岡 わかりました。内訳教えてください。祭のときの私の飲み食いとかの分だけで
もいいんで

早川 や、でも

外岡 わかりました。はい。じゃあいいです

外岡が帰り支度をする。

大塚 ほらな。あんたらやつぱそうやんな。そもそもちゃうねんなあ、準備やるか、
やらないか、とかそういう議論になること自体がズレてんねんなあ

外岡 そもそも私がやりたい、やるって決めたわけじゃないですし

大塚 それが、ズレてるんですよ

外岡 なにが

大塚 なにがって、この人間とよそもの感覚とは

外岡 わかんない

大塚 わかってるでしょうが

伊藤 いや、状況が違ってるじゃないですか、感覚とかじゃなくて、月75000円、年間90万ですよ。それがいきなりなくなった弊害でしょこれ。そりゃ焦りますよみなあると思ってたんだから。僕再来月ですよ産まれるの。検診の自己負担7万8千でしょ、出産費用54万は、一時金引いても、12万は自己負担でしょ、いや、土日か夜中に生まれたら+1万かかるんですよ、そしたら自己負担13万、ベビーベッド2万5千万ベビーカー4万、毎月、おむつ代代4500そういうお金が消えたんだから、僕ら責められるのおかしいですって、外岡さんも悪くない僕も悪くない、ベシックインカム中止が全部悪い！

大塚 ベシックインカムのことと、このことは別やろ！ ベシックインカムなんて関係なくて、飯田の人間もよその人間も、お祭りやっさにぎやかにしようってそんだけやろ

外岡 だから、そういう、いまにぎやかにできる人で回してください

早川 ……外岡さんあの私、ごめんなさい、ほんと払いたいですけどお金

外岡 いやもういいです

早川 ごめんなさい

外岡 その話は今していない

早川 あの、ほんと払いたいですけど無くて、今言うことじゃないかもしれないんですけど、その、ちょっと、会計のミスがあって、会計のっていうか買物のミスでもう、お金が足りないんです

奥村 え、どういうこと

早川 9万円。9万円たりないんです。神楽の、太鼓、ネットで買ったんです。聞いたことないオークションサイトで。最初15万とかあって、やばいと思ったんですけど、1万円のがあって、1万円だと思ったって話なんですけど、クレジットだから値段わからなくて、で、10万円。だからほんと1万円じゃなかったんです！

奥村 ……えっと、分かった人？

皆、きょとんとしている。

早川 ごめんなさい

奥村 怒ってなくて

伊藤 つまり、太鼓購入をミスったってこと？

早川 ほんとにごめんなさい

奥村 で、いくらマイナスですか

青山 ちよっとさ、それ、今言うこと？

早川 いや、でも、いつか言わないとって

青山 今こんな状況なんだけど

早川 ごめんなさい

奥村 (声を荒げて) だから、いくらマイナス！ …… (興奮をおさめて) っ
う

早川 ……9万円

全員 9万…

奥村 はい、足りないのが、9万円。頭割りで、一人1万円ほど。はい、これでいい
じゃないですか

外岡 え、1万円なんて無理無理

青山 織ちゃん今いないでしょ、全員揃ってるときに決めないと

奥村 一人に払わせられないでしょ？ あの、返品とかはできないんですか

早川 ノークレームノーリターン！

奥村 ああ、

早川 なんか、私安くしよう安くしようってことばかりで冷静じゃなかったんです、
だってなかなか払わないじゃないですか、お祭りの賛助金。伊藤君も、外岡さんもな
んか理由つけて、当日まで払わないかもあって、じゃあその分どっかで浮かせない

とって

織子、部屋に戻ってくる。

織子 ごめん、そろそろほんと帰らないと

青山 おりちゃん、大変

織子 帰り支度、なに？

青山 聞いて。ゆいちゃんがね、なんか買ったもので値段間違えたんだって、それで皆でその分、立て替えるしか方法がないみたいな

織子 なになに、何買ったって？

早川 あのネットで神楽の太鼓がいるってなった、いや、で、すごい焦ってて1万円と思ったんだけどもっと高くて、9万円足りないっていうか十万円したっていうこととでほんとは1万円で収めようとしてたんですけど

織子 ……ごめん、全然入ってこない

奥村 9万足りないっていう

早川 ごめんなさい

奥村 いいですよね？ もう、頭割りしかないです

その時、今まで以上に激しい雨が窓を打ち、激しい音を立てる。

皆、外を見る。

続けて、皆の携帯電話がけたたましく鳴る。

梅坂市の河川氾濫アラートである。

織子 帰ろう帰ろう

青山 もーやだあ

大塚の携帯が着信し、電話に出る。

大塚（電話しつつ）はいはい。わかりました。……消防団から連絡ありました。山辺川、溢れるかもって。警戒レベルⅡにあがってるんで、ここも避難所になります、皆さんも自分と家族の安全確保で動いてください

皆、反応する。

織子 この避難所って、うちらなんかやった方がいい？

大塚 ちょっとまってください消防団の団長につないで聞いてみます、避難運営の委員も兼ねてるはずなんで。皆さん、ここは浸水はしないと思いますけど、念のため、荷物片づけてから帰ってください

皆、集会所の荷物を片付ける。

奥村 私、防災係があつて家のそばの避難所で点呼とらないとなんで早めに出ます

大塚 大丈夫です

奥村 みつこさん、服全部あげちゃいましょうか

みつこ うん

みつこも、オロオロとしながら、移動作業に加わる。

伊藤 ちょっと僕も早めに出ます(杏に)あの、そっち今大丈夫？

杏 うん音はすごいけど

伊藤 すぐ帰ります

杏 はい

杏、ログアウトし、PCの画面から消える。

青山 でもめのわ、どうすんの

織子 とりあえず片付けて

青山 どうしよう、みんな、藁、持って帰って

皆 はいはいー

大塚 二階の準備室から防災セットだけ持ってきてもらってもいいですか

皆 はいー

早川、青山以外二階へ移動する。

青山、めのわの前で固まっている。

早川 青山さん、二階手伝いに行きましょう

青山 お祭り終わったら、このめのわ、全部燃やしちゃうんでしょ。なんかいっそ、今全部燃やしちやいたいよねえ

早川 怖いです

青山 (笑って) まあ、持って帰るんだけどね、わたしは。燃やさずに60年生きてきたから。

織子 (二階から) ごめんちょっと人手ほしい!

早川・青山 はいはいー

外岡は、避難所設置の作業に加われず、さっと勝手口から帰宅する。

奥村、廊下で電話を受けている。

奥村 はい、すぐ行きます、今学校のところにいる

奥村、電話を切り二階に向けて声を出す。

奥村 みつこさん!行きますよ!みつこさん!

みつこの返事がない。

奥村 みつこさん(二階に)すいませんちょっと私防災係あってでないとなんで!みつこさん送ってくのお願いします!

皆 (二階から) はい

この時の皆の返事は空返事で、あわただしい中で、言葉を聞き取れない状態で返事をしている。

教室内はある程度片付いている。

大塚 (教室から廊下、二階へ向けて) こっちは大丈夫なんで帰れる人から帰ってくださいね!

伊藤、二階から防災セット(段ボールに入っている)を持って部屋に入ってくる。大塚の指示のもと防災セットを部屋の隅に置く。

伊藤 すいません失礼します

伊藤、帰宅する。

織子、青山、早川も防災セットを持って、部屋に入ってくる。

織子 なんて？

大塚 帰れる人から帰ってって

織子 ああなんだ、雨がうるさいやらなんやらで聞こえてなくて、ひどいねこれ

大塚 ですねえ

早川・青山 お疲れ様でした

早川、青山が防災セットを部屋に置いてから、帰宅していく。

大塚 織子さん帰らんと

織子 帰る帰る

織子、動かない。

大塚 えっと

織子 さっき、ごめん急に出てって

大塚 ああ、いや、別に俺が悪かったし

織子 あの後、大変だったってさっき青山さんから聞いて

大塚 まあ

織子 啓介、タバコ持ってる？

大塚 はい

大塚、織子にタバコを渡す。

織子、自分の分を手に取り、大塚の分のタバコを渡す。

大塚 え、今？

織子 すぐ終わるからさ

それぞれのタバコに火をつける。

一呼吸、沈黙の時間が流れる。携帯灰皿に灰を落とす。

織子 今日は、疲れた

大塚 そうねえ

織子 ていうか寒い

椅子にかけてあつた大塚の上着を、織子が着る。

大塚 似合う似合う

織子 どうもどうも。寒くなってくると人恋しいわ

大塚 人恋しい、ですね

織子 今日も結局一人で寝るのかと思うと憂鬱ですよ

大塚 寝るときは誰かそばにいてほしい

織子 それは、質問？

大塚 いや、俺も同じやなという、表明

織子 表明？飲みにでも来るかうち

大塚 今日は、帰って家の様子見て、公民館の方も避難所になってるから手伝いかな

織子 やることやらんとね、休憩終了

大塚、織子、タバコを消す。

織子、廊下へ顔を出して。

織子 もうみんな帰ったよね

大塚 はい、伊藤くんみただしよ、青山さん早川さん外岡さん

大塚、電気を消す。

大塚 水曜の夜空いてませんか？

織子 あいてる

大塚 飲みましょか

織子 おっけいー

大塚 あと服返してもらって

二人、部屋から出ていく。

無人の集会所。しばし時間が流れる。

激しい雨の音がする。

やがて、廊下を歩くスリッパの音がする。

暗い集会場に、子守唄を歌いながら、黒木みつこが現れる。

【第三幕】

第二幕の翌夕日の夕方。集会所。

大塚、青山、早川、織子、外岡がいる。

大塚、語り始める。

大塚 「なんか拍子抜けやったなあ」朝、消防団の詰め所に行ったらみんなぼやいて「警報の基準下げ過ぎちゃうか」「みんな避難してくれんようになる」とか……でもまあとりあえず手分けして、被害がないか山辺川の監視ポイントを見回ったんです。川の濁流はまだ収まってなくて、杉の丸太が岩の間に刺さってたりはしてたけど、どこも被害はなくて……いや、下氏の工事中の土手は溢れて。ちよつと。僕と何人かスコップで道路に残った泥をよけなあかんかって。そしたら四ツ峰の総代さんから団長に電話かかってきたらしいで。「山行く道、崩れとるで」って。はい。四ツ峰に向かう峠の手前です。行っただんです。「あんな辺鄙なとこだけで済んで良かったな」言うて、行っただんです。斜面が崩れてて、土砂が流れてて、5本、いや8本。根っこむき出しになった杉が8本ほど入り組んで、カーブミラーと一緒に倒れて倒れてとって、道塞いどって、ガードレールひしゃげとって。コンクリートの側溝あって、そこにおったんです。みつこさん。こけてしもたんか、足はめたんかわかりませんが、おっただんです。泥と杉の葉っぱと一緒に。肩幅ぐらいいしかなない側溝にみつこさん挟まっただって……引き上げた時点でもうあかんで、警察に連絡して、みつこさん引き渡して……

…みつこさんの服、覚えてませんか？ あの晩、水色のワンピース着てませんでした？
みつこさん。

織子 ……どうだったろう……

早川 それが、思い出せなくて……

大塚 あの晩、雨の中、みつこさん、家帰らんとあの雨の中、山んどこまで歩いていて……いや、俺、最後までここおったのになって、気づかんか……

大塚、胸にこみ上がるものを堪え、大きく息を吐いて、言葉を塞ぐ。

部屋の隅には、二階に避難した藁の束が戻されている。しかし、作業をする者は誰もいない。

しばしの沈黙が流れる。

織子 みつこさんの葬儀やらないって

大塚 明日、火葬と納棺はするみたいですけど、葬式は

織子 やらないの？

大塚 みつこさんのお姉さんが嫌がったって

織子 梅阪にいる？

外岡 やらないんだ

早川 おかしくないですか？ 普通やりますよね

外岡 あんまり、仲良くないんじゃないかなかった

早川 そんなのおかしいですよ

織子 思うところはあるけど、あとで、お墓参りだけでもさせてもらうしか、ね

杏、伊藤部屋に入ってくる。

杏、手にナイロン袋を持っている。

杏が現れたことに、皆、反応する。

織子 ああ、杏ちゃん、来たんだ

杏 うん

伊藤が促して、杏、近くの席に座る。

織子、杏のそばに座る。

織子 大丈夫？

杏 (うなずいて) ……これ

杏、ナイロン袋から野の花の花束を取り出す。

織子 ああ

早川、花瓶をもって杏のもとへ

早川 ここに

早川、杏から花を受け取り、花瓶にさしてみつ子の席へ置く。

早川、手を合わせる。

杏、伊藤、外岡、みつこのミシン前で手を合わせる。

織子も手を合わせようと立ち上がる。

青山は、ひとり長机に突っ伏している。

織子、長机に顔を伏せている青山の肩に触れる。

織子 青山さん

青山 ……

織子 杏ちゃんが花持ってきたよ

青山 ……

青山、黙ってじっと動かない。

織子、ミシンの前で手を合わせる。

なつと、顔を上げる青山。

青山 送っていくって言ったのに、私送っていくって言ったのに、何にもしないで帰っちゃって……

織子 やめよう

青山 本当に、最悪。いっつも。バタバタして、焦ってばっかで、バタバタバタバタ……

織子 私も最後残ってたのに、ちゃんと確認もしないで

大塚 いや、俺が見回りせないかんかったんです

青山 違う私が送っていくって約束してたから

早川 あんなに、雨が、ひどくなる前に、皆、帰らせればよかったです、祭りの準備だって、引き留めるようなこと、私が言ってる。

伊藤 ちょっとやめましょう、こういうの

織子 うん、つらいわ、やめよう

外岡、皆の輪から外れて、部屋の隅にいる。椅子の上で体育座りをしながら、皆を見ている。

やがて、青山、席を立ち、歩き始める。

ただ、無言で歩き、どこを指すでもなく、ぐるぐると、集会所の中を回っている。

皆が青山を見ている。

織子 ちょっと

足音と、時折青山が発する嗚咽の音だけがする。

織子、青山を止めようと身体に触れるが、青山は止まらない、振り払うように歩き続ける。

早川 やめて

伊藤 青山さん

織子 青山さんっ

皆、口々に声をかけるが、青山は止まらず、走るような速度で進む。

杏 青山さん

杏、声をかけて彼女の前に立つ。青山の動きが止まる。杏、青山を抱きとめる。
青山の息が切れる音だけがする。

織子は水を飲ませようと流し台でコップに水を汲む。

そのとき、流し台の傍ら。給湯セットに置かれた茶筒に目が留まり、固まる。

織子 あ……

みつこの入れていたドクダミ茶が茶筒に入っている。

織子、茶筒とその茶筒を手に取り、もう片方の手でコップを手にし、青山のそばに持っていく。

織子 青山さん、水

青山 いい……ありがとう

杏、織子の手元にある茶筒に気づき。

杏 ドクダミ茶……

織子 (うなずきながら) ドクダミ茶。みつこさんの。みんな飲もう

杏 うん

織子 (明るく振る舞って) お茶飲む人?

伊藤 はい

早川 はい

織子 ほら啓介

大塚 ……もらいます

織子 とのちゃんは?

外岡 いや私は

織子 飲みなよ。せっかくだし

青山 ……もらっていい?

織子 もちろん

笑顔をたたえて織子、みつこがしていたように茶葉を取り出し急須に入れ、湯をそそぐとポットのボタンを押す。

しかし、ボタンは反応しない。

織子 あれ……（おどけて）ああ、もうコード刺さってないじゃんかよお……

おどけて織子、ポットのコードを差し込み、湯呑みをお盆の上に用意しはじめるが、途中でパタツと手を止める。

織子 （長いため息と共に）あー……（上を見上げる）

沈黙。

早川 ……裕美子さん。裕美子さんってまだ

伊藤 （携帯を見て）返信、ないです

外岡 家の前、車なかったけど

早川 どこ、いったんだろう

外岡 わからない。

青山 私（立ち上がって）電話するよ

外岡 私するけど

早川 どうしましょう、裕美さんが来てからにします？

織子 祭りやるかやらんかだしね。みんなで決めたい

早川 ですよ

早川、部屋の隅に置かれたためのわに触れる。

織子 まあでも、やるにしてもやらないにしても、今日は、ちょっと

早川 ただ……もう今週末だから、もし、その、お祭りを、中止にするようなことがあるなら、早く連絡を回さないよ

杏 中止って決まったん？

早川 いや決まってるないけど

外岡 実際問題、できるかな

誰も言葉を発さない。

早川、途中まで作っていたためのわの結び目をほどく。

杏 中止は、寂しいね、

伊藤 だよね……でも……（皆に）ねえ？

皆、沈黙する。

織子 みつこさん、衣装も作ってくれてたのに

外岡、段ボールからみつ子が塗っていた神楽衣装を取り出す。

神楽衣装を机の上に乗せる。神楽衣装に触れるものもいる。

織子 ああ。（衣装に触れて）もうできかけてるのに

早川 どうでしょう衣装

織子 どうって……お姉さんいる間にみつこさんのものは集めて渡さないとじゃない

早川 でもちゃんとお葬式もしてくれないんですよ

織子 それでもやらないとでしょ

織子、衣装に触れている。

織子 なんかしてあげないと、って思ったんだよね、みつこさん。一人で寂しいだろうなって、一人の寂しさは私わかるから

外岡 一人は寂しいかもだけど、二人いたって寂しいは消えないよ

織子 そうかも。でも私は誰かいてほしい。恋人か、家族か、それがだめでも、私のことちゃんと知ってくれてる人がそばにいてほしい。なのに、最期に一人にしちゃった

大塚 たーっ！

織子 なに

大塚 俺、みつこさんに死んだ蛙投げたんさなあ……

織子 ？

大塚 死んだ蛙、小学校の帰り、みんなよって投げたんさ。みつこさん追いかけてくるもんで、おもしろがって、「キチガイキチガイ」言うて投げて、俺も投げたんさ。「あのおばさんは病気やで近づいたらあかん」って母親に怒られて、おばちゃん病気悪なって施設入ってさ、しばらくして出てきたときには、おばちゃんのこと何か言うような人もおらようになってたけど、みんな無視して、おらん人扱いしてて。ずっと、ああ……おばちゃん、みんなのこと好きやったと思う。ありがとうございます。ありがとうございます。

大塚、頭を垂れる。

織子、大塚のそばにいき身体をさする。

その時、グラウンドの砂を巻き上げながら、一台の車がグラウンドへ。

クラクションを何度も鳴らしている。

皆、窓の向こうにいる車を見る。

伊藤 あ、裕美子さんです……（窓際に近づき）なんだろ。ちょっと手伝ってきます

大塚 俺も行くわ

伊藤と大塚、足早にグラウンドへ駆けていく。

皆、窓の向こうを伺う。

青山 なにあれ？

織子 さあ

やがて、奥村、続いて伊藤と大塚。透明の衣装ケースを抱えて集会所へ入ってくる。

衣装ケースの中には、洋服、皿や湯呑、書類、小箱など荷物がぎっしりと詰まっている。

織子 なに？

奥村 いやいや、大変だった

青山 なに

奥村 みつこさんの家に行って、色々もらってきました

外村 えーっ

青山 マジで？

奥村は鼻息を荒くして、衣装ケースを机に置く。

奥村 いやあ強烈なお姉さんで。大変。みつこさんのもの全部捨てるっていうんだもん。ほとんど強奪

織子 どういうこと？ それ大丈夫なの？

奥村 みつこさんに手合わせたいってね、お願いしたんだけど、これがまったく「おたく、関係ないですよね」ってぜんぜん埒あかない。もう家ね、片付け初めてんですよ

青山 えっ？

奥村 「えっ」でしょ？ もうぜんつぶ処分。もう、ゴミ袋用意してポイポイ、みつこさん作った服、これも、これも、もうゴミ袋に入れて

早川 ああ

奥村 「これ捨てるんですよねっ!?!」「いいですよねっ!?!」って私、もう慌てて……と
りあえずこんだけ

織子 それはごくろうさんだったねえ

奥村 もっと貰ってきたかったですけど、とりあえず

青山 強烈だったんだ

奥村 私これ詰めてる間中ずーっと。「あんな妹残して、両親に先に逝かれた」「妹のせいで私の人生狂わされた」って、ずーっと自分の苦労話ばっか聞かされて

織子 そんなこと言うんだね

奥村 ほんとに

織子 裕美子さん、これどう……する？

奥村 はい、一回全部出して、ここで整理します

奥村、衣装ケースを開けて物を取り出していく。

早川、奥村が取り出した手作りの服を見つめ、「ちょっと見せてもらってもいい？」と手に取る。

皆、それぞれにケースを開けて、遺品をみる。

その後、遺品を手取る。机の上に少しずつ遺品が並んでいく。

奥村、みつこのタオルをみつける。

奥村 「黒木みつこ」

杏 みんな名前書いてある

奥村 入院とか施設入る時書くんだよ

奥村、マジックで書かれた「黒木みつこ」の文字を見つめる。

奥村 思い出したわ、お姉さんの感じみてたら

今泉 思い出す？

奥村 母のこと

青山 ああ

奥村 うちさ、「私殺すんか」って言われたんだよね

伊藤 殺す？

奥村 母が要介護で施設にいたときさ、お見舞いいけない日があって、そしたら『あなた私を殺すんか』って30分説教。いやいや、私これでも結婚もやりたいことも我慢してずっと一緒にいたんだけど

織子 それ、認知症入ってたの？

奥村 認知じゃないんだなあ。真面目に言うんだなあ、なんもいえねえ！

外岡 それは、なんもいえねえだ

早川、みつこの服に触れながら。

早川 これ平気で捨てるとか

青山 ひどいよ

早川、手を止める。

早川 いや、うちも同じか！

青山 同じって

早川 うちの姉だって私の描いたもの容赦なく捨てれるわ

奥村 お姉さんうまくいってないんだよね

早川 目の敵ですよ、父が亡くなる時も、舌癌で父が亡くなってるんですけど、私だけ死に目に立ち会えて、姉は間に合わなかったんですね。そしたら病室ですよ？『あなたは好きなことだけやって！最後お父さんに会えて私が会えないなんておかしい！』って

奥村 いや、それはなあ

早川 なんもいえねえですよ。家族だから理解してとか言わんけど！でもみつこさんも、いつも真剣な顔して作ってて、それも知らんとゴミにするのはちよっと

青山 なんで家族で揉めるんだろううね

青山、みつこの遺品の大きなつばの帽子をかぶる。

皆も、遺品を手にとり、検分している。

杏 そやけどこれすごい量やな……

大塚 これ、このイオンのチラシ、2001年のや

織子、牛乳石鹼を取り出す。

織子 懐かしい、牛乳石鹼

早川 こっちにもいっぱい

外岡 包装紙めっちゃとってある

奥村 家がすっごいんだよ、物がぐわーっと床にもこんなに

並べられたものをそれぞれに手に取っている。

伊藤、クリアボックスに触れる。

伊藤 うわあ、これ実家にいっぱいあった

奥村 「布きれ」とか書いて分けようとしてんだよ、でも、中見たら全然違うの、お構いなし

伊藤 それ滅茶苦茶実家と一緒にすわ。うちの場合こんなダイニングテーブルの上まで積まれてて、うち、家族仲小学生くらいで終わってるんで、ダイニングつかわねえだろうって具合にどかどか積まれてて、それどけてどけてご飯食べて

奥村 大変だ

伊藤 慣れたら気にならないですよ。全然、気にならない。でも自分はあれだけ子どもはちゃんとしたいとかは思いますけどね、いや仕事もできてなくて何がちゃんとして話ですけど

杏、伊藤にパンチする。

伊藤 痛い、なに？

杏 自虐せんでほしいから。私たち今でもちゃんと真剣に考えてるやんずつと

伊藤 そうな

杏 大丈夫

杏、アロハシャツを二着持っており、一つを伊藤に渡す。

以降の会話をしながら、二人はアロハシャツを着る。

杏 これ、みつこさんに頼んでたん。もうできてたみたい

伊藤 ああ……。ありがとう。アロハだ

杏 次の夏着たらいいから

伊藤 次の夏。考えてたんだけど、週末婚とかどうなんかな

杏 週末婚？

伊藤 杏ちゃん飯田に残って、僕が平日名古屋で仕事して週末飯田に戻ったらお金も仕事も生活も回らんかなって

杏 週末婚……

伊藤 子供のことも考えんとだからまだわからんけど

外岡 子供のことはあれだけど、週末婚というか別居婚自体は成立するよ

みつこのくたびれたショルダーバッグを何個も肩に下げている外岡。手には皿を
持っている。

伊藤 そうですよ

外岡 うちはお互い自立して生きていきましようになったから、良し悪しだけどね、
仲悪くないけど頼ってくれるな感あるし

杏 夫婦でお金、毎月入れなあかんのやろ？

青山 そこシビアだよ

外岡 それもだし、旦那に仕事辞めたいって相談したときさ、「やめてどうすんの」「や
めてもやることないよね」って。おっと。ちよつと仕事辞めてもいいよって言葉、正
直聞きたかったけど。自立してんだからしょうがないね……あれ？ なんの話だっけ
これ

織子 (笑って) 知らん、何も言えねえ話だよ

奥村 何も言えねえ！

外岡 何もいえねえ！というか、ちよつとは優しいこと言えよ！

皿をコツコツとたたきながら。

外岡 この皿！うちも持ってて。鬱、(皆に)鬱だったじゃん私、で。旦那に黙って休
職決めたでしょ。旦那朝出社して夜帰って、一年ずつと何も言わなかったんだよ。私
家にずつといるのについて、「どうしたの」とかずつと何も言わないで、でも家事できな
かったから私、全部ご飯作ったりはしてくれて。これ、このイオンのオリベの皿、こ

れに旦那が作ったなら玉が乗ってんの

そばでうなずきながら話を聞くものも、みつこの遺品に触れながら耳を傾けているものもいる。

大塚は神楽衣装を着て、その話を聞いている。

青山、みつこの遺品から金ちゃんヌードルの空き容器をいくつもみつつけて、床に並べだす。

織子 青山さんなにそれ

青山 金ちゃんヌードルのカップがいっぱい出てくるんだわ

どンドン金ちゃんヌードル容器が並んでいく。

奥村 それ、みつこさん土入れて植木鉢代わりにしてて

早川 植木鉢かー

奥村 庭先に並べて、コスモスとかビオラとか育ててた

青山 私の母もさ、こんな容器をいっぱいとってあってヨーグルトのパックに調味料入れたりしとったわ、「そんないらんでしょ」って言ったら「何かに使えるんだわ」って必ず言い返されて、こんなしとったんだみつこさん

早川 どんどんでてくるわ

青山 醤油、醤油、醤油、豚骨、豚骨、豚骨

織子 これ全部食べたんかなみつこさん

青山、ひたすら容器を並べている。

その様を見て嘔き出すものもいる。

杏、みつこの遺品の中から、小さなボイスレコーダーを見つける

杏がそのレコーダーに触れると、みつこが手平金の演奏を練習する音が聞こえる。

時折みつこの「あ、違っわ」というような独り言も聞こえる。

皆、その演奏を聴いている。

奥村、声をあげて泣きだす。

早川 家で練習してたんだ

奥村 みつこさん楽しみにしてたから

しばし、その音を皆聞いている。

やがて、奥村、みつこの演奏に合わせて手拍子始める。

それをみて、青山、織子、合わせて手拍子を始める。

早川、ふと足元の段ボールから太鼓を取り出す。

外岡 あ、それ

早川 せっかくなんで使わないと

織子 10万もしたからね

早川 10万って高すぎませんか？

早川、太鼓で音を出してみる。

外岡 おお、それっぽい音出てる

早川 これが10万の力ですよ

奥村が「拝めば」と歌い始め、それを受けて外岡も手拍子に交じる。
皆、歌い始める。

全員 〱 拝めば神くだる

〱 四方の神も花とこそ

〱 むかしむかしのそのむかし

と歌いながら織子、神楽衣装を手に取り大塚のもとへ。

織子、大塚に神楽衣装を着せる。

全員 〱 梅坂浜のはてのはて

〱 海の神さんおったんや

〱 四つ峰山のそのねきに

ゝ山の神さんおったんや

ゝあらさーほらさーほいさっさ

大塚、衣装を着終わると踊りだす。

全員 　ゝむかしむかしのそのむかし

ゝ梅坂浜のはてのはて

ゝ海の神さんおったんや

ゝ四つ峰山のそのねきに

ゝ山の神さんおったんや

ゝあらさーほらさーほいさっさ

以降も囃子は続く。

大塚に合わせて一緒に踊りだすものもいる。

手拍子をしながら部屋の中を歩く者もいる。

皆、みつこの服を着ており、景色は鮮やかだ。

みつこのものが並ぶ部屋の中机の上、それを囲み手拍子や踊りをする人たち。

織子　よっ！

奥村　いいよ！

と、大塚の踊りに声を出して盛り上げる。

外岡、段ボールから山の神祭りを使う弓と矢をみつける。

外岡、そばにいる伊藤に渡し、自分でも構える。

伊藤（弓をいじくり）こうですかね

外岡　わからん、いけいけ

二人が天に向けて弓を放つ。

その後、皆、部屋に置かれていたためのわを手に取り、力強く天へと投げはじめ。次々にめのわが天に飛んでいく。

教室には場違いなほどに、音が、踊りが、鮮やかな色彩が、飛び交うものが存在する。

みつこの演奏する楽器の音が聞こえ続ける。

そこに、夕方5時をつげる猛烈なサイレンの音。

皆、動きを止める。サイレンが鳴り響いている。

夕陽が、窓から部屋に差し込んでいる。

やがて、サイレンがやむ。

窓際にいた杏、窓から外を見ている。

杏 （外に視線をやりながら）きれい

そばにいた織子、伊藤、一緒に窓の外を見る。

外を見ていた織子、不意に外へ出る。

外岡 織ちゃん？

織子、外に出て夕陽を眺める。

外岡、織子を追って外に出る。織子のそばに立つ。

皆、二人の動きを追って外の方を見ている。

やがて、奥村、みつこのボイスレコーダーを手に取る。ボイスレコーダーを再生する。

再び、みつこの演奏音が流れ始める。

奥村、外へ出る。

ゆるやかに、皆身体を揺らしたり、手拍子、太鼓を鳴らし始める。

外にいるものも音に反応している。

織子 啓介

大塚 なに？

織子 こっち

大塚の後に青山、伊藤、杏、早川も外へ出る。

外で歌と踊りが再開される。

それに合わせて太鼓を持った早川も太鼓をたたきながら外へ出る。

青山も手拍子を入れながら外へ出る。

杏、伊藤、連れ立っていくように外へ出る。

この間も雛子は口ずさまれ、みつ子の演奏は続き、太鼓や手拍子の音はしている。

奥村一人部屋に残っている。

奥村、ボイスレコーダーを手に取り、外へ出る。

みつこの作った鮮やかな服をまとった者たちが窓の向こうのグラウンドで歌い、踊っている。

歌いながら踊りながら、彼らは歩いていく。

グラウンドからさらに奥に、背の高いススキが一面に生えている。

ススキが揺れている。

やがて、夕陽はかすかに暗みを帯び、沈んでいくことがわかる。斜陽。

皆、ススキの中に分け入るように、歩き、消えていく。

ススキが揺れて音をだしている。

幕